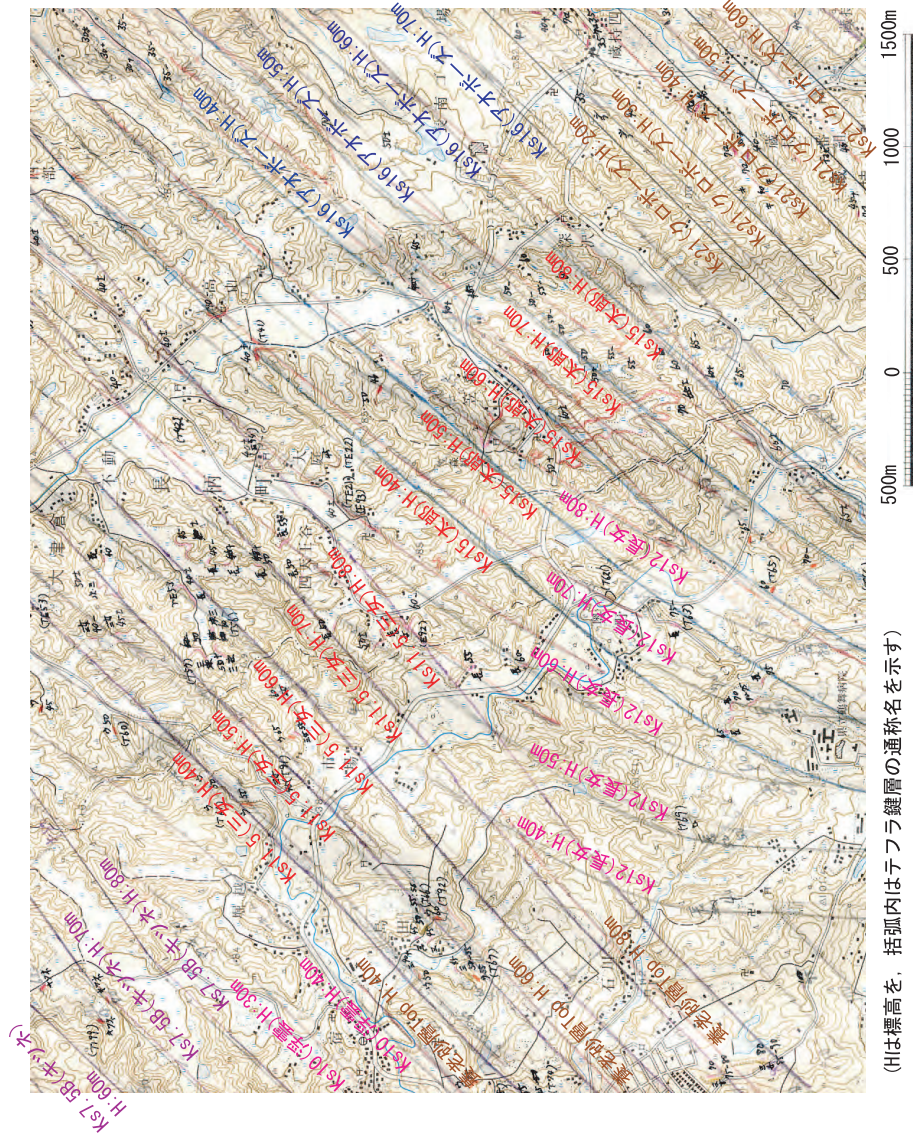


「姉崎」地域の主要なテフラ鍵層や岩相（累層・部層）境界の 等高度走向線分布図作成のための下図（上総層群笠森層分布域）

国土地理院や市町村などが発行の小縮尺（5千分の1や1万分の1）の地形図の上や野帳に描いた、各種テフラ鍵層や岩相境界の分布や標高に関するデータの要点のみを、国土地理院発行の広域地形図の上に落とし、それを基に、それぞれのテフラ鍵層や岩相境界の等高度の走向線を10mないし20mの標高差間隔で描いている。地形図は、国土地理院発行の2万5千分の1「鶴舞」を使用。本図の位置を口絵7に示す。このような下図（作業図）を経て、代表的なテフラ鍵層や岩相境界の等高度走向線を「姉崎」地域全体に描いたのが口絵7である。



(Hは標高を、括弧内はテフラ鍵層の通称名を示す)